

ジニア ソルシート Solcito, Zinnia

学名: *Zinnia maritima*

種子粒数の目安: 2,600粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地*

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.1、また EC 値は 0.75mmhos/cm(2:1)以下が適正

播種

288 から 406 穴くらいのサイズのトレイに播種。ヨーロッパで使われている 264 穴でも可。覆土はしない

ステージ 1 - 発芽には 4,5 日要する

地温: 21-24°Cが適正

光条件: 発芽時に光が必要。光が足りないと発芽不良、あるいは芽切後に苗が徒長することがある

水分: 培地はやや湿潤の状態を維持(Koranski の Water Management level 4)

湿度: 子葉が発生する頃までは相対湿度を 95%+

ステージ 2

地温: 20-22°Cが適正

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで上げても可

水分: レベルを中くらいまで下げて(level 3)、培地内での根の生育を促す

肥料*: レート 1(100ppm(N)以下、EC 値が 0.7mmhos/cm)で、リン酸分の低い硝酸態の肥料を与える

ステージ 3

地温: 18-20°Cが適正

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで上げても可

水分: 培地の表面がやや茶色に乾くくらいまで、乾かしぎみにドライな管理を行う(level 2)。苗を枯らせないように注意します

肥料*: ステージ 2 と同様の肥料をレート 2(100-175ppm(N)、EC 値が 0.7mmhos/cm)に上げる

矮化剤: このステージでは不要

ステージ 4

地温: 17-18°Cが適正

光条件: 温度のコントロールが可能なら、53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで上げても可

水分: 培地はドライな状態を維持。苗を枯らせないように注意します

肥料: 上記ステージ 3 と同じ

鉢上げから出荷まで

培地(用土)*

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.2、初期の EC 値は中庸で維持

温度

昼間温度: 19-22°C

夜間温度: 16-19°C

照度

温度のコントロールが可能なら、できるだけ高くする

かん水

極端に過湿にしたり、乾かしすぎたりしないようにする。苗を枯らせないように注意する

肥料*

レート 3(175-225ppm(N)、EC 値が 1.2-1.5mmhos/cm)で、リン酸分の低い硝酸態の肥料を週 1 回与える。株の具合を見ながらアンモニア態と硝酸態を使ってうまく調整する

矮化処理剤(PGR)

アメリカ仕様: ポット上げ後 2 週の段階で、B-ナインを 2,500-5,000ppm 散布する。効果を見ながら、必要であれば 10 日後にもう 1 度散布

北ヨーロッパ仕様: 同様の段階で、B-ナインを 1,600ppm、サイコセルを 185ppm のタンクミックスで 2 回ほど散布(この方法は日照量が少なく、また温度が上がりやすいという特殊な条件を想定しているため、日本ではアメリカ仕様を参考にされた方が合理的)

ピンチ

ピンチは不要です

平均的な生産期間

播種から移植まで(288-406 穴トレイ): 4 から 5 週

移植から出荷適期まで: 6 から 7 週

出荷適期までの期間はポットサイズによって変わる

病例等

害虫: とくに報告例はなし

病気: とくに報告例はなし

注意点*: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合があります